

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 53-088261

(43)Date of publication of application : 03.08.1978

---

(51)Int.Cl.

B01F 9/02

---

(21)Application number : 52-002736

(71)Applicant : SHIN MEIWA IND CO LTD

(22)Date of filing : 13.01.1977

(72)Inventor : KUWABARA TAHEI

---

(54) FRONT WALL STRUCTURE OF MIXER DRUM IN CONCRETE MIXER CAR

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide the front wall structure of a mixer drum in a concrete mixer car, wherein the strength of the front wall of a mixer drum, which particularly necessitates rigidity, is conspicuously enhanced, the weight of the full mixer drum is reduced, and adherence of raw concrete to the inner surface of the front wall is reduced as less as possible.

⑬日本国特許庁

⑪特許出願公開

# 公開特許公報

昭53—88261

⑥Int. Cl.<sup>2</sup>

識別記号

⑤日本分類

庁内整理番号

④公開 昭和53年(1978)8月3日

B 01 F 9/02

72 B 312

2126—33

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 3 頁)

④コンクリートミキサ車におけるミキサドラム  
の前壁構造

佐野市栄町2番地 新明和工業  
株式会社川西モーターサービス  
佐野工場内

①特 願 昭52—2736

⑦出 願 人 新明和工業株式会社

②出 願 昭52(1977)1月13日

西宮市小曾根町1丁目5番25号

③発 明 者 桑原太平

⑧代 理 人 弁理士 落合健

## 明 細 書

1. 発明の名称 コンクリートミキサ車における  
ミキサドラムの前壁構造

### 2. 特許請求の範囲

(1) 車体枠2上にミキサドラム1を回転自在に支承してなるコンクリートミキサ車において、前記ミキサドラム1の前壁4を、その中心より外周に向つて凹状湾曲面5と凸状湾曲面6とが連続した縦断面滑らかな8字状に一体形成し、前記前壁4の内面において前記凹状湾曲面5の頂部に、ミキサドラム1内に収容される円錐状補強板7の外周縁内面を固着し、前記前壁4の中心と補強板7の中心とに亘つて支持軸8を固着し、さらに前壁4の前面にはスプロケット車9を固着してなる、コンクリートミキサ車におけるミキサドラムの前壁構造。

(2) 前記スプロケット車9は、ミキサドラム1の

前壁4に固着される希リング10の外周に環状のスプロケット歯11を固着し、前記支持軸8と希リング10間を、前記前壁4に放射状に固着される複数本のブラケット12によつて一体に連結してなる、前記特許請求の範囲第(1)項記載のコンクリートミキサ車におけるミキサドラムの前壁構造。

### 3. 発明の詳細な説明

本発明は、軽量で強度アップが図れ、かつ生コンクリートの付着しにくい、コンクリートミキサ車におけるミキサドラムの前壁構造に関するものである。

一般にコンクリートミキサ車の車体枠上に搭載されるミキサドラムは、その中に収容される生コンクリートの凝固を防止するため、絶えず強制回転させる必要があり、その回転トルクに十分に耐え得る強度を保有し、かつ回転駆動が容易になる

よりできるだけ軽量に形成でき、かつ内壁面に生コンクリートが付着しないようにすることが望ましい。

本発明はかかる目的をすべて満足できるようにした、構造簡単なコンクリートミキサ車におけるミキサドラムの前壁構造を提供することを目的とするものである。

以下、図面により本発明の一実施例について説明すると、1はコンクリートミキサ車の車体枠2上に支持枠3を介して回転可能に支持されるミキサドラムで、このミキサドラム1の前壁4は、その中心より外周に向つて凹状湾曲面5と凸状湾曲面6とで連続して縦断面滑らかなS字状に形成されている。また前記前壁4の内面の前記凹状湾曲面5の頂部にミキサドラム1内に収容される円錐状の補強板7の外周縁内面が着着されている。

ミキサドラム1の中心部には支持軸8の中間部

が貫通して着着され、この支持軸8の内端は、前記補強板7の中心部に着着されている。

ミキサドラム1の前壁4には、スプロケット車9が固着され、このスプロケット車9は、前記前壁4の凸状湾曲面6の頂部に固着される帯リング10と、この帯リング10の外周に着着されるスプロケット歯体11と、前記前壁4に着着され前記帯リング10と支持軸8間を放射状に連結する6本の断面チャンネル状のブラケット12とより構成されている。而して前記スプロケット車9はチェーンを介して図示しない適宜の駆動源に連結されている。前記支持軸8の外端は軸受13を介して前記支持枠3上に回転自在に支承されている。

スプロケット車9が駆動されると、ミキサドラム1は支持軸8とともに正転あるいは逆転駆動され、ミキサドラム1内に生コンクリートを投入し、また投入された生コンクリートを攪拌し、あるい

はその生コンクリートを排出させるものである。ところで、ミキサドラム1は特にその前壁4が、前述のようにスプロケット車9からのトルクを直接受けるので、そのトルクに耐え得る剛性を有し、また全体をできるだけ軽量に形成して少ない動力で円滑に回転できることが望ましいが、本発明ではミキサドラム1の前壁4は凹状湾曲面5と凸状湾曲面6とで連続した不連続部のない滑らかなS字状に形成されるので、それ自体で十分の強度を保有させることができ、加えてその内面に比較的小径の円錐状の補強板7が着着されるので、前壁4の剛性が著しく高められて変形、歪曲することなく、スプロケット車9からのトルクを受けることができ、さらに従来のもの比べて補強板7が可及的に小径なもので十分の剛性が得られミキサドラム1全体の重量が著しく軽減される。

またミキサドラム1はその内壁面に従来のもの

のように不連続な凹部や段部があると、そこに生コンクリートが付着凝固し、それが剝離して生コンクリート内に混練され、その生コンクリートの組成成分を劣化させたり、また付着凝固した生コンクリートが次第に積層して混練性能に影響を及ぼすような不具合が生じるが、本発明では前壁4を補強する補強板7は円錐形状に形成され、しかもその外周縁内面が前壁4の凹状湾曲面5の頂部に着着されるので、補強板7によつてミキサドラム1の内面に生コンクリートが付着するような不連続な凹部や段部が形成されることがなく、前記したような不具合を生じることがない。

さらに前壁4の外面に固着されるスプロケット車9は、そのスプロケット歯体11が前壁4に着着される帯リング10によつて補強され、それ自体の剛性が高められるとともに前壁4の剛性をも高めることができる。

以上のように本発明によれば、ミキサドラム1の、特に剛性を要求される前壁4の強度を著しく高めることができるとともにその全体重量を軽減することができ、さらに前壁4内面への生コンクリートの付着を可及的に減少させることができるものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

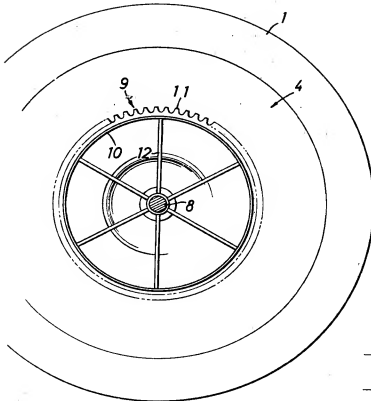
第1図は本発明ミキサドラムの要部縦断の一部側面図、第2図は第1図Ⅱ-Ⅱ線矢視図である。

1はミキサドラム、2は車体枠、4は前壁、5は凹状湾曲面、6は凸状湾曲面、7は補強板、8は支持軸、9はスプロケット車、10は帯リング、11はスプロケット歯体、12はブラケットである。

特許出願人 新明和工業株式会社

代理人 弁理士 落 合 健

第2図



第1図

